

国際協力研修「保健衛生管理セミナー」

(実施期間:2016年5月16日～6月8日)

1. 本研修の概要

多くの開発途上国において、いわゆるヘルスセクターリフォームが計画されている中、保健省をはじめとする保健医療行政組織の能力向上が大きな課題となっている。本研修は、研修員個々の直面する保健医療サービスの提供の課題解決に必要なマネジメント能力の向上を通じて、当該諸国の公衆衛生機関の組織能力向上を図ることを目的とした。

2. 実施方法

当研修は2016年度で27回目を迎え、2016年5月16日(月)から6月8日(水)の約3週間の期間で実施した。国立保健医療科学院、JICA 東京センターにおいて、講義や演習を行った。

研修の内容は、今日の保健医療の課題を解決するため保健医療従事者のコンピテンシー、特に、マネジメント能力の向上を図るため問題分析把握、人材管理、保健財政、リーダーシップ、コミュニケーション、保健医療サービスの質などの講義と演習、そして地方自治体の保健衛生行政視察(滋賀県)、自治医科大学における施設見学と地域医療に関する講義等で構成した。また、小グループによる課題解決に向けたディスカッションノートの作成と発表も組み込んだ。

さらに今年度は、5月21日(土)に国立保健医療科学院において日本国際保健医療学会第31回東日本地方会が開催され、自国の保健システムの課題について、研修員3名が口頭発表、11名がポスター展示をし、学会に参加した日本人専門家との意見交換を行った。



【東日本地方会発表 本院: 4-6, 7 講義室】

3. 対象国

本年度の対象国は、ジョージア(1名)、ホンジュラス(2名)、インドネシア(3名)、イラン(1名)、ケニア(2名)、ナイジェリア(2名)、シエラレオネ(1名)、トルクメニスタン(1名)、ウガンダ(1名)の9か国からの合計14名であった。研修参加者は、主に地方保健局、中央政府における公衆衛生を担う中堅技術専門官であった。



【講義風景 本院: 4-6, 7 講義室】



【集合写真 本院: 玄関ロビー】